

岡山県におけるニホンイシガメの分布

砂場千奈・藤林真・亀崎直樹（岡理大・生地）

Distribution of *Mauremys japonica* in Okayama prefecture

By Senna SUNABA, Nao FUJIBAYASHI and Naoki KAMEZAKI

日本の固有種であるニホンイシガメ *Mauremys japonica*（以下、イシガメ）は生息地である河川や湖沼の環境破壊や外来種による影響を受け、年々その生息数は減少傾向にあると言われている。岡山県においては、1900年頃まではイシガメが普通種だったが、1990年代にはクサガメが多くを占めるようになり、そこに新たにミシシippアカミミガメ（以下、アカミミガメ）が侵入してきたとされている（亀崎他, 2017）。2014年から2017年にかけて行なった岡山理科大学生物地球学部動物自然史研究室の調査によると、岡山県の淡水カメ相におけるイシガメの割合は2.7%で、クサガメの70.1%、アカミミガメの26.7%と比べると著しく低く、絶滅が危ぶまれる状況であることが明らかになった。そこで、新たな生息地を探したところ、岡山県の東部に新たな生息地を発見したので報告する。

岡山県には高梁川、旭川、吉井川という3大河川を中心に多くの水脈が流れ、人工的に作られたため池も多く存在している。当研究室では2014年から現在（2017年）にかけて県内でカメの捕獲調査を行なった結果、イシガメは相対的に吉井川水系に多く、岡山県の西部よりは東部にまだ生息地が残されている可能性があることが示された。

そこで2017年の5月から8月に新たに岡山県東部の和気郡と備前市の河川とため池で捕獲調査を行なった。調査地は29ヶ所で、内訳は日笠川3ヶ所、金剛川2ヶ所、伊里川4ヶ所、不老川1ヶ所、和意谷川3ヶ所、飯掛川1ヶ所、八塔寺川5ヶ所、大藤川2ヶ所、ため池は8ヶ所であった。採集はカメ網を用いて、29ヶ所で93網を投入した。採集したカメ類は99個体で、そのうちイシガメは24個体で全体の24%と比較的高い割合で発見された。イシガメが捕獲されたのは河川で10ヶ所22個体、ため池1ヶ所2個体で、河川の調査地の48%、ため池の調査地の13%であった。また、1網でとれるイシガメの数（CPT）を求めると大藤川で2.2と最大を示し、我々の今までの調査においても最も高い数値を得た。このように、生息する確率、また、生息密度も河川の方が高かった。谷口他（2015）や谷口（2016）は同様に兵庫県の西部におけるイシガメの生息数が多いことを記録しており、岡山県と兵庫県の県境付近にイシガメの生息域が残されていることが伺われ、今後の更なる調査と保全対策の必要性を感じた。特に、今回イシガメが捕獲された調査地の45%にあたる5ヶ所では同時にクサガメも捕獲されており、今後のクサガメの増加とイシガメの減少が危惧され、早急な対策が望まれる。